

# 安全に関する改善事例

記入日: 2005年 10月 20日

(所属会社)

(氏名)

(連絡先電話番号)

記入者:

ダム名	所在地県名	発注者	型式	ダム諸元		
				堤高(m)	堤頂長(m)	堤体積(千m3)
森吉山ダム	秋田県	東北地方整備局	R	89.9	786	5850
設計・施工区分	工種	想定される事故の種類	想定される事故の要因	危険作業の種類	設計変更の有無	
施工	フィルダム堤体工	墜落・飛来落下	人的・設備	上下作業	有: <input type="radio"/> 無: <input checked="" type="radio"/>	
改善の概要:					特許の有無	
フィルダム本体基礎掘削作業と並行して、基礎通廊構造物の構築およびブランクettグラウチング工事を施工することにより、本体盛立作業との上下作業を回避したものである。					有: <input type="radio"/> 無: <input checked="" type="radio"/>	

メリット:  
盛立(岩着)作業は人力での作業が多く、また、最下部での作業となるため、上部作業がないことで安全性が向上する。

デメリット:  
本体基礎掘削時に基礎通廊やブランクettグラウチングを施工することから、ダムサイト地形に大きく影響される。施工のための進入路造成が可能であることが必須条件である。

改善後 (略図または写真)



本体基礎掘削(河床部)施工と並行して、基礎通廊およびブランクettグラウチングを施工している状況。上流側では、上流締切堤の盛立作業中である。各施工箇所には進入路が確保されているのがわかる。森吉山ダムのダムサイトは左岸側がゆるく、最大勾配でも1:2.5となっている。右岸側は1:1.0勾配となっているが下部では1:8と非常に緩い勾配である。このため、掘削の途中段階で進入路を設けて、基礎通廊やブランクettグラウチングを先行して施工することが可能となった。なお、もうひとつのメリットとして、基礎通廊やブランクettグラウチングが終了しているため、盛立工程に他工種の影響がなく、盛立可能日数を最大限利用することができる。